

日本労働組合総評議會第二回全国大会

日本労働組合総評議會の沿革

日本労働組合総評議會は旧分農党と支持関係にあつた合法的
左翼主義の立場にある労働組合の全国的聯合体である。

総評議會の結成を見たりが昭和三年四月であつて創之日は殊きも、
その胎生は分農党の結成と期を一つにしてゐる。

日本労働組合評議會が、昭和三年四月十日、三・一五事件（オニ次芝屋
受事件）に内運して労働農民党とともに解散を命ぜられたが、其後新分
農党樹きの運動と平行して左翼労働組合の合法的確立が企圖された。

然るに三年十二月に於ける新分農党創設大会は解散を命ぜられた運動の主体